

ISSN 1882-0468

ISSN-L 1882-0468

NDL 書誌情報ニュースレター

2012年1号(通号20号)

目次

次の段階に向かって	(収集書誌部 金箱秀俊)	1
2011年の書誌データ統計	(収集・書誌調整課 書誌サービス係)	2
お知らせ:RDAをテーマに、平成23年度書誌調整連絡会議を開催しました	(収集書誌部)	6
お知らせ:国立国会図書館ホームページに、書誌情報提供サービスのページを作成しました	(収集・書誌調整課 書誌調整係)	8
お知らせ:雑誌記事索引採録誌一覧のテキストファイルでの提供開始および採録対象の追加について	(逐次刊行物・特別資料課)	9
コラム:翻訳書をめぐる冒険—ユネスコ「世界翻訳書目録」	(収集・書誌調整課 河合将彦)	10
コラム:書誌データ探検 音楽・映像資料編 表現世界と目録世界とをつなぐ懸け橋—音楽・映像資料の目録作成	(逐次刊行物・特別資料課)	12
掲載情報紹介		16
編集者からの一言		17

次の段階に向かって

2012年1月、国立国会図書館の各種サービスは大きな転換点を迎えました。大規模なシステムリニューアルが行われ、従来のサービスを統合し、多くの機能を備えた「[国立国会図書館サーチ](#)」が、国立国会図書館の内外の情報の検索サービスの出発点に据えられたからです。[NDL-OPAC](#) も一新され、アジア言語資料、雑誌記事、電子ジャーナルが一度に検索できるようになりました。また、作成中の書誌データを公開し、MARCフォーマットなどによるダウンロードが可能になりました。

また、1948年に刊行が開始された前身の「納本月報」から数えると62年余りの歴史をもち、2002年13号(通号2372号)からは国立国会図書館ホームページで提供してきた『日本全国書誌』は、リニューアルに先立ち、2011年43号(通号2851号)をもって終刊し、NDL-OPACの[書誌情報提供サービス](#)の画面から提供することとなりました。

近年、情報通信技術の飛躍的発達などの状況の変化に伴い、探索機能の向上、書誌データ提供機能の改善、作成の迅速化などの要件が、書誌サービス一般に求められるようになりました。また、日本の中心的な書誌データ作成機関としての国立国会図書館には書誌調整機能の強化という課題もありました。

このため、数年来、国立国会図書館は「[国立国会図書館の書誌データの作成・提供の方針\(2008\)](#)」および「[国立国会図書館の書誌サービスの新展開](#)」のふたつの方針に基づき、このリニューアルをひとつの目途として具体的改善に努めてきました。それは、例えば、新着書誌情報の提供による情報提供の迅速化、JAPAN/MARCデータのNDL-OPACからのダウンロード、書誌データの国際的流通を考慮した[MARC21フォーマット](#)やUnicodeの採用といった形で、今回、具体化されています。まだ実現出来ていないもの、改善できていないものは確かに数多くありますが、リニューアルを契機に、次の段階への階段を曲りなりにではあれ一段上ることができた事の意味は決して小さくはありません。

今後の大きな課題のひとつに、オンライン資料の収集が開始された後の書誌サービスの在り方があります。次の段階では、デジタル時代の新しい書誌サービスについて、全国の皆様とともにその具体化を考えていきたいと思えます。

金箱 秀俊

(かねばこ ひでとし 収集書誌部)

2011年の書誌データ統計

2011年1年間に日本全国書誌および JAPAN/MARC に収録された書誌データの件数、ならびに過去5年間の収録件数の推移を統計としてまとめました。また、2011年12月末現在、NDL-OPAC に収録されている書誌データの累計(全体の件数)も表にしました。

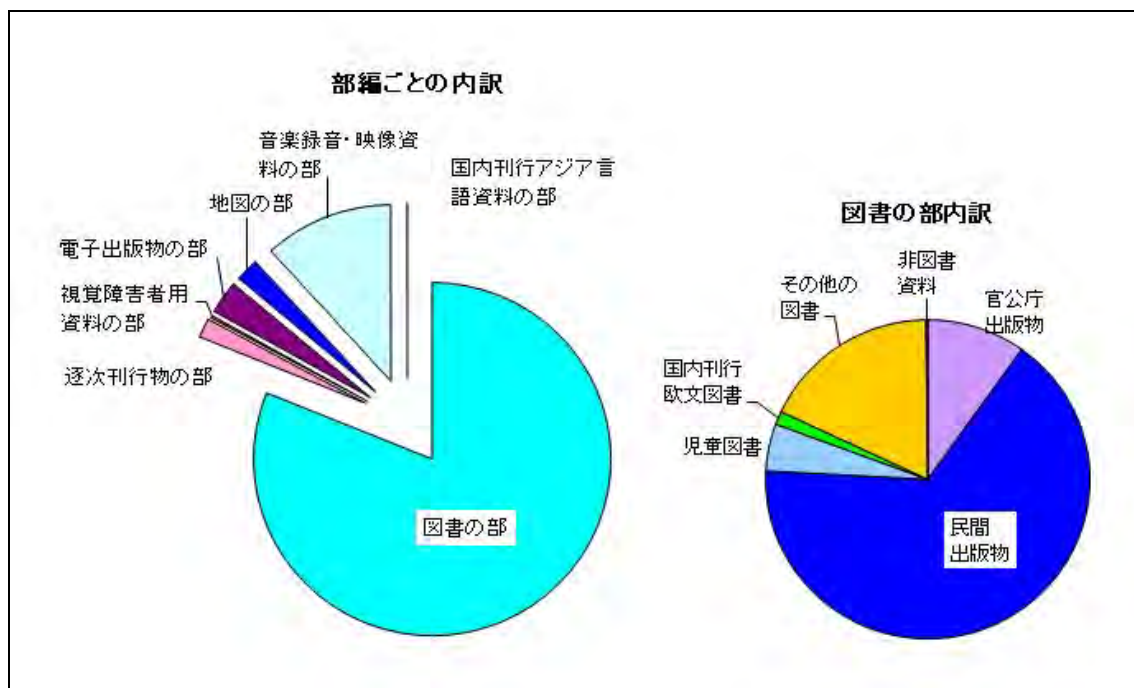
なお、日本全国書誌は2011年43号(通号2851号)にて終刊となり、NDL-OPACにて検索する「全国書誌」として提供を開始しました(詳しくは「1.日本全国書誌」をご覧ください)。また、NDL-OPACも、2012年1月6日にリニューアルしました(詳しくは「3.NDL-OPAC(国立国会図書館蔵書検索・申込システム)」をご覧ください)。

1. 日本全国書誌

法定納本制度に基づき国立国会図書館に納本された国内出版物と、納本以外の方法により収集した(寄贈、購入など)国内出版物および外国刊行日本語出版物の書誌データを、日本全国書誌として、ホームページにHTMLテキスト形式で掲載してきました。HTML版日本全国書誌は、2011年43号(通号2851号)にて終刊となり、2012年以降は「全国書誌」として [NDL-OPAC](#) の「[書誌情報提供サービス](#)」画面にて検索する方式に移行しました。

日本全国書誌収録件数 2011年1～43号(通号2809～2851号)

収録総件数	135,357
1号平均	3,148
1～43号 部編別内訳	
図書の一部	113,422
官公庁出版物	10,645
民間出版物	74,042
児童図書	5,906
国内刊行欧文図書	1,175
その他の図書	21,443
非図書資料	211
逐次刊行物の部	2,252
視覚障害者用資料の部	225
電子出版物の部	3,962
地図の部	2,194
音楽録音・映像資料の部	12,986
国内刊行アジア言語資料の部	316



グラフ 1 : 2011 年日本全国書誌の内訳

* 過去 5 年間の日本全国書誌収録件数のグラフは [グラフ 2](#) に掲載しています。

2. JAPAN/MARC

書誌データを MARC フォーマット機械可読目録によって頒布しているものです (媒体は CD-R)。導入した機関が、それぞれのデータベースに JAPAN/MARC の書誌データを登録し、利用することができます。図書および非図書資料については、JAPAN/MARC (M) として年 50 回 (2011 年はシステムリプレースのため 44 回)、新規データ・更新データを提供しています。国内刊行逐次刊行物については、JAPAN/MARC (S) として年 2 回、全件データを提供しています。それぞれ日本全国書誌に収録した書誌データに加え、遡及入力した国内刊行物の書誌データも一部収録対象としています。

また、著者名典拠については JAPAN/MARC(A) として年 2 回全件データを提供しています。

* 遡及入力とは、紙媒体のカードなどによって作成されていた目録を、コンピュータに入力することです。JAPAN/MARC の年間の収録件数は、日本全国書誌の年間の収録件数だけでなく、その年の遡及入力の実施状況によっても変動します。

JAPAN/MARC(M)収録件数 (新規データ) 2011 年 1~44 号

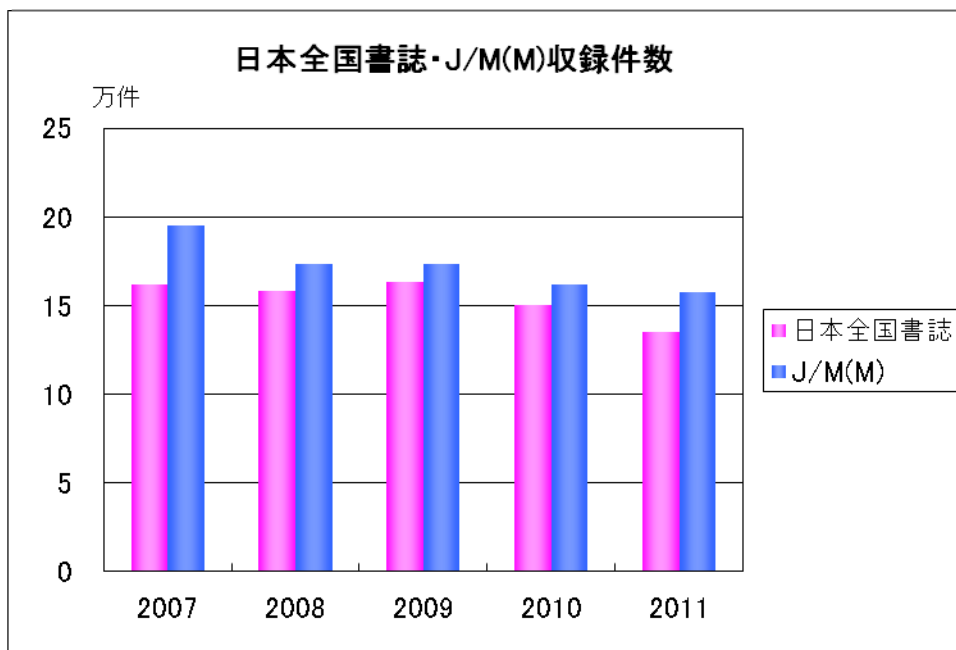
収録総件数	157,277
1 号平均	3,574

JAPAN/MARC(S)収録件数 (全件) 2011 年 12 月末現在

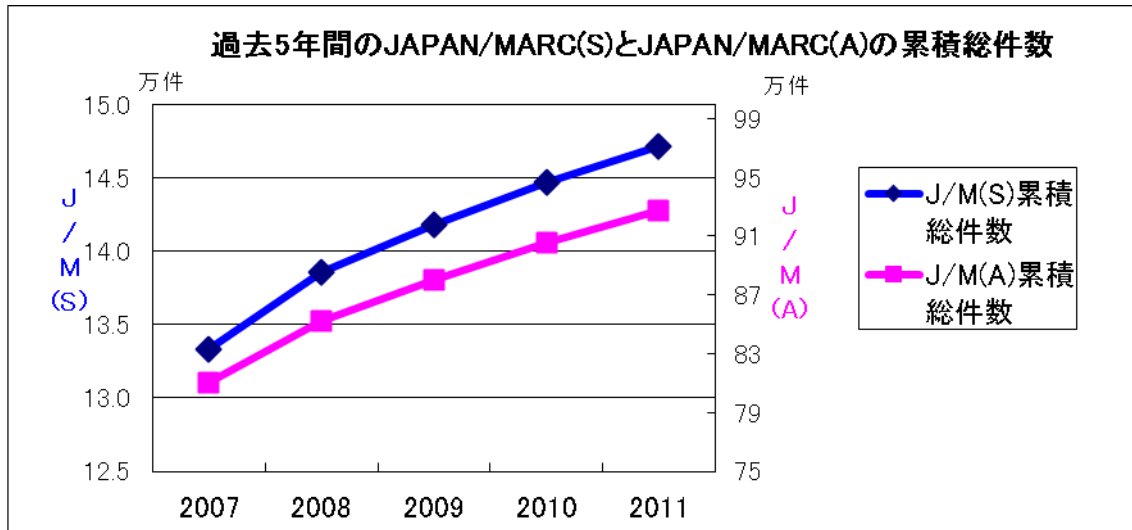
累積総件数	147,148
-------	---------

JAPAN/MARC(A)収録件数(全件) 2011年12月末現在

累積総件数	927,837
-------	---------



グラフ2: 過去5年間の日本全国書誌・J/M(M)収録件数



グラフ3: 過去5年間のJ/M(S)とJ/M(A)の累積総件数

3. NDL-OPAC (国立国会図書館蔵書検索・申込システム)

国立国会図書館の蔵書を検索して、利用を申し込むためのシステムです。日本全国書誌、JAPAN/MARCに収録した書誌データだけでなく、国内の博士論文、文部科学省科研費報告書、洋図書、洋雑誌などの書誌データも収録しています。

なお、[NDL-OPAC](#) は 2012 年 1 月 6 日にリニューアルしました。典拠は「[国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス](#)」(Web NDL Authorities) にて提供を開始しています。

NDL-OPAC 累積件数 2011 年 12 月末現在

(リニューアル後の NDL-OPAC および Web NDL Authorities と一部項目が異なります)

		データ種別	件数
書誌 (雑誌記事索引を含む)	書誌	図書	5,360,805
		雑誌新聞	205,936
		電子資料	47,104
		和古書・漢籍	69,693
		博士論文	626,323
		地図	216,860
		音楽録音・映像資料	613,423
		蘆原コレクション	67,812
		規格・テクニカルレポート類	2,942,677
		点字図書・録音図書全国総合目録	469,146
		日本占領関係資料	296,587
		プランゲ文庫	32,227
		小計	10,947,463
	雑誌記事索引	10,428,914	
計	21,376,377		
典拠	著者名	個人名	752,569
		団体名	175,265
		小計	927,834
	件名	個人名	40,170
		団体名・地名	48,991
		家族名	2,125
		統一タイトル	3,775
		普通件名	104,854
		小計	199,915
	計	1,127,749	

(収集・書誌調整課 書誌サービス係)

お知らせ：RDA をテーマに、平成 23 年度書誌調整連絡会議を開催しました

国立国会図書館収集書誌部は、国内の書誌調整に関する情報の共有と意見交換により、書誌データの作成および提供の充実と発展に資するため、毎年「書誌調整連絡会議」を開催しています。今年度は、2012年1月27日(金)に、「RDA、その動向、構造及び課題整理」と題して開催し、招へい者および当館職員が出席しました。



書誌調整連絡会議の会議風景

[RDA\(Resource Description and Access\)](#)は AACR2 (英米目録規則第 2 版) の後継となる目録規則で、以下のような特徴があります。

- ・ [FRBR \(書誌レコードの機能要件\)](#) および [FRAD \(典拠データの機能要件\)](#) の概念モデルを基盤としており、従来の目録規則とは大きく異なる構造をしている。
- ・ FRBR で設定された目録を使って達成すべき四つの利用者タスク、「発見」、「識別」、「選択」、「入手」を想定した章立て をしており、利用者の視点を取り入れた規則といえる。
- ・ 「関連」を重視し、典拠コントロールの考え方を規則上に明確に位置づけている。
- ・ 従来注記に一括して記録していた事項を個別のエレメントに独立させるなど、機械可読性の向上を図っている。

- ・資料の物理的側面(体現形・個別資料の属性)と内容的側面(著作・表現形の属性)を分離し、「資料種別」の概念を再編成している。
- ・構文的側面(区切り記号法やエレメントの順位)については扱わず意味的側面に特化することで、[RDF\(Resource Description Framework\)](#)などのウェブ標準の構文規則を用いる可能性を広げている。
- ・世界中の目録機関で使われることを目指して、英語圏偏重を是正している。

2010年6月の刊行後、米国議会図書館(LC)で導入テスト^[1]が行われるなど、海外ではRDA採用に向けた検討が進められています。RDAへの対応も含めた国内の目録の方向性について意見交換を行い、また、国立国会図書館におけるRDA適用に向けての課題を整理する目的で、今回の書誌調整連絡会議を開催しました。

まず、帝塚山学院大学准教授の渡邊隆弘氏から「RDAの概説と動向」と題して、RDA策定の経緯、基本的な構造、従来の目録規則と比較した特徴、刊行後の動向について報告がありました。続いて、筑波大学大学院教授の谷口祥一氏から「FRBR/FRADからみたRDAそしてMARCフォーマット」と題し、RDAの位置づけやFRBR/FRADとの関係性、MARC21フォーマットの採用も含めた具体的な実装方法の選択肢について報告がありました。その後、当館から「RDA適用に向けての国立国会図書館の課題整理」と題して、当館の適用目録規則、典拠コントロール、システムについての課題や展望を報告しました。

各報告の後に行われた質疑応答・自由討議では、RDAへの対応は国内各機関において緒についたばかりであり、その適用に向けては、NDLが率先して大学図書館を始め関係機関との連携を図り、ネットワーク情報資源のデータの扱いも合わせて検討を進めるべきとの意見がありました。また、RDAにおいては典拠コントロールが重視されており、コントロール対象の拡充などに係るNDLが担うべき役割も今後一層重要となるので、その費用対効果を考慮しつつ取り組むべきことが確認されました。

会議の概要については、「[書誌調整連絡会議](#)」のページに掲載しています。

(収集書誌部)

[1] 導入テストの結果は以下に掲載されています。

<http://www.loc.gov/bibliographic-future/rda/> (参照 2012-2-17)

お知らせ：国立国会図書館ホームページに、書誌情報提供サービスの ページを作成しました

国立国会図書館では2012年2月23日に、ホームページをリニューアルしました。書誌データに関する部分では、「[書誌情報提供サービス](#)」のページを新たに作成しております。

この「[書誌情報提供サービス](#)」のページには、2012年1月からの当館の書誌データ提供について、ご案内を掲載しております。

JAPAN/MARCデータの提供について、全国書誌データの利用方法、新着書誌情報RSS配信について、公共図書館等における書誌データのご利用についてなどをご紹介します。

当館の書誌データのご利用にぜひお役立てください。

(収集書誌部 収集・書誌調整課)

お知らせ：雑誌記事索引採録誌一覧のテキストファイルでの提供開始および採録対象の追加について

(1) 採録誌一覧テキストファイルの提供開始

[雑誌記事索引の採録誌一覧](#)は、これまで、HTML ページでのみ提供していましたが、2012年2月23日のホームページのリニューアルにあわせて、テキストファイル（タブ区切り形式）でも提供を開始しました。[ISSN](#) など HTML ページに掲載していない情報を追加したほか、全体を1ファイルに収録しており、検索、加工などが容易に行えます。

また、採録誌一覧の HTML ページには [NDL-OPAC](#) の雑誌記事データへのリンクを設置し、その雑誌の詳細な書誌データや所蔵状況の確認などが容易に行えるようになりました。

(2) 採録対象の追加

これまで、雑誌記事索引は紙資料のみ採録対象としており、採録誌が電子資料に移行した時点で採録を中止していました。2012年1月からパッケージ系電子資料に移行した採録誌の一部について、採録を開始しています。今後、パッケージ系電子資料の採録を拡大することを検討しています。

また、これまで児童書総合目録に収録されていた『こどものとも』などの月刊絵本雑誌の記事についても、雑誌記事索引と同様に NDL-OPAC で検索することができるようになりました。

(逐次刊行物・特別資料課)

コラム：翻訳書をめぐる冒険—ユネスコ「世界翻訳書目録」

外国人の作家で、日本で一番翻訳されているのは誰でしょう？

日本人の作家で、世界で一番翻訳されているのは誰でしょう？

こうした疑問に答えてくれるのが、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が運営している「[Index Translationum](#)」（[世界翻訳書目録](#)）です。

「Index Translationum」は、図書普及事業の一環として、1932年に国際連盟の事業として六か国で開始されました。その後、運営の変更や第二次世界大戦による中断を経て、現在約150か国が参加し、1,100もの言語で200万以上のデータがあるデータベースとなりました。

このデータベースは、それぞれの国の国立図書館などからのデータ提供で成り立っており、日本の書誌データについては、国立国会図書館が「前年に発行された図書のうち、外国語で書かれ日本語に翻訳されたもの」を中心としたリストを年に1度作成し、ユネスコに送付しています。

日本が初めて参加したのは1950年のことです。当時は原稿カードで提供を行い、その後磁気テープとなり、現在はMARC形式のファイルをFTP転送で提供しています。

国立国会図書館における翻訳書データの抽出は、書誌データ中に「原文の言語」を示す値があるかどうかで判断しています。書誌作成の際に、翻訳書の場合には、原書の言語を記録するために、3桁の「言語コード」を「原文の言語」として入力しています。したがって、この値があれば翻訳書ということになります。平成23年度は5,720件の書誌データを翻訳書誌として提供しました。

「Index Translationum」のWebサイトでは、世界各国の翻訳書を調べることができます。[NDL-OPAC](#)では、「日本語で書かれたものが、どの言語にどんなタイトルで翻訳され世界各国で出版されているか」を網羅的に調べることはできません。世界各国のOPACで調べようとしても、まずその国のOPACを探るところから始まり、探したい本のタイトルを入力して調べる、しかも日本語なのか英語なのか当地の言葉なのかさえわからない、それを何十か国も繰り返すなどを考えると大変な労力です。しかし、これが「Index Translationum」ならば、すぐに検索することができます。

たとえば、村上春樹の「羊をめぐる冒険」は、スペイン語では「La caza del carnero salvaje」、ドイツ語では「Wilde Schafsjagd」、リトアニア語では「Avies medžioklė」というタイトルで翻訳されていることがわかります。三島由紀夫の「金閣寺」は1992年までのセルビア・クロアチア語で「Zlatni paviljon」、黒柳徹子の「窓ぎわのトットちゃん」は、シンハラ語で「Hari puduma iskole」、オリア語で「Totto-chan」、テルグ語で「Toto-can」として出版されていることがわかります。逆に、サリンジャーの研究者が「『The catcher in the rye』は各国でどのようなタイトルで出ているだろうか？」と思ったときに、すぐ日本語の「Raimugi batake de tsukamaete」を探し出せるのは、国立国会図書館が毎年書誌データを提供しているからなのです。

また、「Index Translationum」には、統計のコーナーがあり、「登録数が多い著者ベスト50」や、ある言語を選んで「その言語に翻訳された言語ベスト10」（例：日本語に翻訳された本の、元の言語の多

い順)といった統計が載っています。冒頭に挙げた疑問は、ここで解決しますので、ぜひご覧ください。

日本ではあまり知られていないデータベースですが、思いつく本をいろいろ検索してみてください。「なぜこの本がこんな言語に訳されているのだろう?」「なぜ日本語訳はこのタイトルにしたのだろう?」など、誰でも翻訳についての興味がわいてくるのではないのでしょうか。そして、このデータベースが、世界各国の図書館の協力できていることを、もっと言えば日々の地道な目録作成作業の成果であることを思い出していただければ幸いです。

河合 将彦

(かわい まさひこ 収集・書誌調整課)

コラム：書誌データ探検 音楽・映像資料編

表現世界と目録世界とをつなぐ懸け橋—音楽・映像資料の目録作成

音楽・映像資料の特性 —表現手法としての記号—

「□□□」。これはアーティストの名前です。「★★★★★★」。こちらは曲名です。各々なんと読むのかおわかりでしょうか？ 正解は、前者が「くちろろ」、後者が「Six stars」と読みます。音楽・映像資料は、クリエイティブな手法で表現されたアーティスト名や曲、映像作品が満載です。それらを検索しやすいようにいかに書誌データとし、目録を作成していくのか。この点が、音楽・映像資料を担当している私達の腕の見せどころです。



「□□□」データ例

当館では、目録作成における記号の読みの取り扱いについては、[「読みにおける記号・アラビア数字・ラテン文字の扱い \(2012年1月以降\)」](#)というルールを設けています。一方で、私達の担当する音楽・映像資料のアーティスト名や曲名・作品名では、記号や言葉は本来の意味にとらわれない傾向にあるようです。そこには、クリエイティブな世界ならではの自由な発想の面白さがあります。

例えば、「☆」は一般的には「ほし」と読みますが、「☆☆☆」ではその形態から「Three stars」、「ほしみつつ」などと読ませる場合があります。「m☆tto」を「mo・tto」としてアルファベットを兼ねさせたり、「初★」を「初黒星」と読ませたりする場合があります。アニメーション作品では、第1期と第2期を区別する際、作品タイトル上の「アポストロフィ (')」の有無のみで違いを表している例があります。バラエティ作品では、通常は数字を使用する巻号表示に、じゃんけんの手の形の絵「グー」・「チョキ」・「パー」を採用しているような例もありました。こうした実例は、以下のように日々蓄積し続けています。

資料表記	実際の読み
活劇音盤	ドラマCD
???	スリークエスチョン
☆☆☆	ほしみっつ
★★★★★	シックススターズ
カウ☆G	カウスタージ
△	トライアングル
数字「11」に右上から左下への斜線	11じゃない
VOL. に じゃんけんの「グー」の形の絵	ヴォリューム グー
肆	し (数字の「四」の意味)
7586	ナゴヤロック
疾走	はしれはしれ

「記号と読み」の例

記号をデータに変換する —検索しやすいようにいかに工夫するか—

検索も書誌作成も、パソコンを使用するため、記号の入力はどうしてもその環境設定に制限されてしまいます。しかし、アーティストの意向を生かしつつ、利用者が検索できるようにするために記号をどのように書誌データにすればよいのか。「記号と読み」の例で挙げました「???'」をもとに、ご説明しましょう。

タイトルは日本目録規則に則り、「転記の原則」によって、資料の表示のまま「???'」と入力します。ただし、この通りに入力しても、この記号では検索できません。タイトルで検索できるようにするには、別の表記でタイトルの読みを入力することが必要です。「?」は一般的には「ハテナ」あるいは「クエスチョン」と読まれます。「ハテナハテナハテナ」かもしれませんし、「クエスチョンかける3」かもしれません。まず、資料そのものにこういったルビ表示がないか調べ、次に解説書による用語説明がないかを調べましたが、読みは判明しませんでした。

そこで、資料に掲載されているアーティストのホームページを検索してみました。すると、この記号は「スリークエスチョン」と読むことが判明しましたので、カタカナ表記の「スリークエスチョン」をタイトルの読みとしてデータを作成しました。NDL-OPAC には下記 NDL-OPAC での書誌情報のように表示されます。なおかつ、タイトル言語に合わせたアルファベット表記も検索に必要であると考えて入力しましたので、「three question」でも検索ができます (NDL-OPAC 「three question」での検索結果参照)。

タイトル	Aira Mitsuki live tour 2011 「???'」 in Liquidroom
タイトルよみ	Aira Mitsuki live tour 2011 スリー クエスチョン in Liquidroom.
責任表示	Aira Mitsuki.
出版事項	[東京]: D-TOPIA UNIVERSE : UNIVERSAL MUSIC (発売), 2

「???'」データ例 NDL-OPAC での書誌情報

「???'データ例 NDL-OPAC 「three question」での検索

「???'データ例 NDL-OPAC 「three question」での検索結果

情報収集へのアンテナと柔軟性を保つ

記号などの特殊な読みは、資料に表記されていることはほとんどありません。それはアーティストの作品への思い入れであったり、予測不能なことで神秘性を高める効果をねらったり、ということではないでしょうか。

目録作成を担当する私達の係では、主要なレーベルのホームページのリンク集を作成し、それらのリリース情報を日々チェックしたり、レコード会社から送付される新譜案内やアーティストのホームページから情報を取得したりしています。また、日常生活の中でもレコードショップのピックアップアーティストや、電車の中吊りや店頭広告の新曲案内など、さらにはTVのCMもチェックするようにしています。難解な読みや特殊な読みなどに対応するためには、こうした情報収集が欠かせません。

終わりに

タレントのベッキーさんが、「ベッキー♯」という名義でアーティスト活動をされていることをご存じでしょうか。八分音符は四分音符の半分の長さ。シャープは音の高さが半音上がる。あわせて「半人前の自分が少しずつでもステップアップ出来ますように」との願いが込められているそうです。このような記号の使い方を知ると、アーティストックな表現世界の奥深さに改めて気づかされます。目録作成者として、固定概念にとらわれることなく柔軟でいられるよう、日々精進して参ります。

(MV feat. H a.k.a TKS 逐次刊行物・特別資料課)

掲載情報紹介

2011年12月26日～2012年3月29日に、国立国会図書館ホームページに掲載した書誌情報に関するコンテンツをご紹介します。

- ・ [Unicode 外の文字リストを掲載しました。](#)
(掲載日：3月21日)
- ・ [読みについての基準類を更新しました。](#)
(掲載日：3月21日)
- ・ [平成23年度書誌調整連絡会議報告\(概要\)を掲載しました。](#)
(掲載日：3月19日)
- ・ [国立国会図書館が提供する JAPAN/MARC データについてパンフレットを掲載しました。](#)
(掲載日：1月25日)
- ・ [「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」のマニュアルを掲載しました。](#)
(掲載日：1月12日)
- ・ [NDL-OPAC からの書誌データダウンロード方法を掲載しました。](#)
(掲載日：1月6日)
- ・ [国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス \(Web NDL Authorities\) を本公開しました。](#)
(掲載日：1月6日)

編集者からの一言

ここ数か月、当ニューズレターのアクセス数がかなり増えてきております。1年前と比較すると約3倍、最も少ない時と比べると8倍近いアクセスがあります。

アクセス数が多く、注目されている記事は「[2011年3号\(通号18号\)『日本全国書誌』の提供方法が変わります](#)」「[2010年1号\(通号12号\) 書誌データのプロダクト提供サービスが変わります](#)」の2本で、2012年1月から大幅に変更となった書誌データ提供に関する記事に関心が集まっていると改めて認識しました。

さて私事で凝縮ですが、先日同窓会に行ってきました。十数年ぶりに会った旧友は懐かしいよりも、各々の変化に驚いた方が大きかったです。当時良く遊んだ友達がアイドルの追っかけをしていたり、真面目なクラス委員長が声優になっていたり、はたまた弁護士がいたり、十数年も経てばどうなっているか分からない物だと実感しました。

1月に変わったばかりの書誌データ提供ですが、十数年後にはどのような形になっているのでしょうか？

本号では収集書誌部長の金箱より挨拶がございますので、是非ご一読ください。またコラムでは当館のユネスコへの活動、書誌データ探検として音楽・映像資料を取り上げます。

(鷗人)

NDL 書誌情報ニューズレター (年4回刊)

ISSN 1882-0468 / ISSN-L 1882-0468

2012年1号(通号20号) 2012年3月30日発行

編集・発行 国立国会図書館収集書誌部

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

E-mail: bib-news@ndl.go.jp (ニューズレター編集担当)